







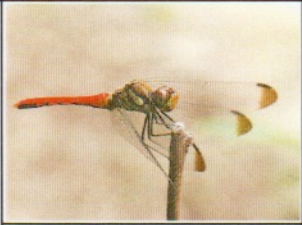



「雲仙の蝶類1」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、蝶類を観察して楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

1	キマダラセセリ	2	チャバネセセリ	3	イチモンジセセリ	4	ナミアゲハ
							
セセリチョウ科 ◎ 開長30mm 食草イネ科 黄色っぽいまだら模様の蝶。林のまわりの草原で良く見られる。草の上を俊敏に飛び回る。地面において吸水することもあ		セセリチョウ科 ◎ 開長20mm 食草イネ科。飛翔はきわめて俊敏でイチモンジセセリと区別が難しい。とまったときに小さな白点が後翅にちらばって見える。		セセリチョウ科 ◎ 開長35mm 食草イネ科 イネの害虫として知られ成虫は好んでイネに産卵する。飛翔は俊敏で素早く、山頂や人家などの庭などにも多く見られる。		アゲハチョウ科 ◎ 開長90mm 食草ミカン類、草原のなどをひらひらりと、やや不規則に飛ぶ。はばたきながら蜜を吸い、どことなく落ち着きがない。吸水は少ない。	
5	キアゲハ	6	アオスジアゲハ	7	クロアゲハ	8	カラスアゲハ
							
アゲハチョウ科 ◎ 開長 90mm 食草セリ科 日当たりの良い草原を敏速に跳ぶ。山頂で占有飛翔するのも多く侵入者があると追飛する。百合類など大型で赤っぽい花		アゲハチョウ科 ◎ 開長70mm 食樹クスノキ、タブノキ 飛翔は敏速で、高いところを飛ぶ。白系の小さな花を好み翅を小刻みに震わせながら吸蜜する。地面の水溜まりで		アゲハチョウ科 ◎ 開長90mm 食樹ミカン科のカラタチなど 山あいの林道をほぼ直線的に飛翔(蝶道)。春はツツジなど花を訪れ、赤系の花を好む。アゲハチョウより		アゲハチョウ科 ○ 開長100mm 食草野生のミカン科 明るい林間を直線的に敏速に飛翔する。各種の花を訪れるが、ツツジやアザミなどが特に多く、しばしば吸水集団	
9	ナガサキアゲハ	10	モンキアゲハ	11	モンシロチョウ	12	スジグロシロチョウ
							
アゲハチョウ科 ○ 開長90mm 食樹ミカン科 ミカン類のある周りをゆっくり飛翔する白い大型の蝶。蝶道が人家の周辺。花蜜を食物として、各種の花を訪れる。		アゲハチョウ科 ○ 開長110mm 食草ミカン科 日本最大級の蝶、後ろ翅のクリーム色の紋が目立つ。花の蜜が好きで各種の花を訪れる。日陰で吸水することが多		シロチョウ科 ◎ 開長55mm 食草アブラナ科 キャベツ畑などを活発に不規則に飛翔。日当たりの良い場所ならどこでも見られる。各種花を訪れる。		シロチョウ科 ◎ 開長60mm 食草アブラナ科 薄暗い湿った場所に多く、モンシロチョウより少し大型で、飛び方も緩やか。名前のとおり翅に黒いすじがある。	
13	キチョウ	14	モンキチョウ	15	ベニシジミ	16	ヤマトシジミ
							
シロチョウ科 ◎ 開長40mm 食草マメ科ネムノキなど 暗い林内を不規則に緩やかに飛ぶ。吸蜜や吸水のときは必ず翅を閉じてとまる。花蜜を好み各種で吸蜜する。		シロチョウ科 ◎ 開長50mm 食草マメ科 日当たりの良いシロツメグサなどの草原を地面すれすれにジグザグに飛翔。モンシロチョウなどよりは、ずっと早く飛ぶ。		シジミチョウ科 ◎ 開長35mm 食草ギシギシ、スイバなど 人家周辺、草地など 明るい場所によく、すばやく飛び回る、吸蜜により各種花を訪れ黄色花を好む。		シジミチョウ科 ◎ 開長25mm 食草カタバミ 人家付近荒地などで日当たり良い場所に見られ、足下の草むらをチラチラ跳ぶ。各種花蜜を好み、吸水することもある。	

「雲仙の蝶類2」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され,その豊かな自然や景観が古くから継承,保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し,美しい自然や蝶類を観察して楽しみましょう!(お持ち帰りは思い出と記録だけ,採集は止めましょう!)

17	ルリシジミ	18	サツマジジミ	19	ウラギンシジミ ♂	20	テングチョウ
							
シジミチョウ科 ◎ 開長30mm 食草マメ科,バラ科,ブナ科。林間草原や沢沿いの草地などを飛翔する。地上1m以上の高さを飛ぶことが多く,湿地によく集まる。		シジミチョウ科 ◎ 開長30mm 食草 スイカズラ科バラ科 ルリシジミに似てるが翅の表面の前,後に白色部があり,裏面の斑紋が1列すくない。湿地では集団吸水する。		シジミチョウ科 ◎ 開長45mm 食草マメ科のフジ,クズ 裏が銀色に輝き,雄の表は美しいオレンジ色,雌は青灰色。飛翔は敏速で直線的。樹液にきたり,給水も多		タテハチョウ科 ○ 開長45mm 食樹ニレ科の榎,エゾノキ 大きく出た下唇ヒゲを天狗の鼻に見立てこの名がついた。多数で地面でよく吸水し,唐突に飛びすぐとまる。	
21	アサギマダラ	22	ツマグロヒョウモン ♀	23	ミドリヒョウモン	24	ウラギンヒョウモン
							
マダラチョウ科 ◎ 開長100mm 食草ガガイモ科キジョラン,カモメズル 長距離を移動する。飛翔がゆっくりでふわり,ふわりと飛ぶ。白,赤紫の花を好んで,しばしば多数で集団吸蜜する。		タテハチョウ科 ◎ 開長35mm 食草スミレ科 林間や草原などふわり,ふわりと緩やかに飛翔する。鳥が敬遠する毒のあるカバマダラに似ている。雄には前翅の黒斑がない。		タテハチョウ科 ○ 開長40mm 食草スミレ科 最も多く見られる大型ヒョウモンチョウ類の1種。日中活発に活動し雑木林の周辺に多く,飛翔は敏速。地面で吸水したり,樹液に来ることもある。		タテハチョウ科 ○ 開長35mm 食草スミレ科 飛び方はやや緩やかで,明るい草原に多い夏を彩るヒョウモンチョウ。後ろばねの裏側から褐色の地に白銀の紋が散らばっている。	
25	コムシジ	26	イチモンジチョウ	27	ルリタテハ	28	アカタテハ
							
タテハチョウ科 ◎ 開長30mm 食草マメ科 羽を広げたとき横3本の白帯がある。明るい雑木林で多く見られる。羽をパタパタと打つようにスイスイと飛ぶ。		タテハチョウ科 ◎ 開長60mm 食草スイカズラ科 羽に1本の白いスジがある。林のまわりで見られ,飛翔は敏速,枝先などに翅を全開してとまる。地面でよく吸水する。		タテハチョウ科 ○ 開長65mm 食草ユリ科サルトリイバラ 黒地に瑠璃色の帯が美しいタテハチョウ。雑木林の周辺を素早く飛び,木の枝,路上羽を水平に開いて休む。		タテハチョウ科 ◎ 開長35mm 食草イラクサ科 日本全国で見られる。林のまわりの草地などで敏速に飛び回る。好んでいろんな花で吸蜜する。	
29	イシガケチョウ	30	ジャノメチョウ	31	サトキマダラヒカゲ	32	クロヒカゲ
							
タテハチョウ科 ◎ 開長60mm 食樹クワ科イヌビワデザインも飛翔も変わったチョウ。細く羽ばたいて滑降する。脅かすと葉の裏に翅をべたりと開いて隠れる。		ジャノメチョウ科 ◎ 開長70mm 食草イネ科 草原をゆるやかに飛翔。スキップのよう飛び驚くと高く上がって木の枝などにとまる。そばで見ると目紋の真ん中はブルー。		ジャノメチョウ科 ◎ 開長60mm 食草タケ類 低い所をパタパタと飛翔。ノリウツギなど白い花で樹液に集まる。ことが多く平地の雑木林に多く,早朝と夕方活発に飛翔す		ジャノメチョウ科 ◎ 開長30mm 食草タケ・ササ類ヒカゲチョウを黒っぽくしたチョウ。後ろ翅の裏面の目玉模様の内側線がヒカゲチョウより強く「く」の字に曲がる。	

「雲仙のトンボ」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、トンボ類を観察して楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

33	ギンヤンマ	34	オニヤンマ	35	ハグロトンボ	36	モノサシトンボ
							
ヤンマ科 ◎ 体長70mm 平地の池や沼で発生。5月頃から9月頃まで開けた水面の池や、川原の水溜まりに見られる。雄には腹に美しい藍色の部分がある。		オニヤンマ科 ◎ 体長100mm 日本で最大種トンボ。緑色の美しい複眼、黒と黄色の模様の体。小さな流れや川、池に見られる。産卵は水底に体を垂直の打ち込む		カワトンボ科 ◎ 体長60mmやや大型。翅が黒いのが特徴。斑紋はなく雄は黒緑色の金属光沢がある。雌は黒褐色。チョウのようにひらひらと舞うように羽ばたく		モノサシトンボ科 ◎ 体長40mm 腹部の節が薄い青で目立ち、ものさしように見えるのでこの名がついた。産卵は雄が雌の胸部をつかんだまま行われる。	
37	シオカラトンボ	38	シオヤトンボ	39	オオシオカラトンボ	40	ナツアカネ
							
トンボ科 ◎ 体長50mm 雌はムギワラトンボとも呼ばれる。雄も羽化直後は雌の色をしている。平地の池などで普通に見られる。雌が産卵している間、雄は空中で雌を守る。		トンボ科 ◎ 体長50mm シオカラトンボよりやや小型。未熟なうちは雄雌とも黄褐色で、腹部が麦わら模様を似るが、雌は腹部8節が側方にやや張り出し区別することが出来る		トンボ科 ○ 体長80mm シオカラより一回り大きい。黄色にはっきりした黒いすじがある。雄は成熟すると全体に黒く、白い粉で覆われ青白くなる。雄の占有性が強く他のトンボを追い払う		トンボ科 ○ 体長38mm 赤とんぼの代表の一つで、池、沼、水田に発生。成熟すると顔まで鮮やかに赤くなる。ナツアカネの産卵行動は、雌と雄が連結飛行をしながら、卵を水に落としていく。	
41	リスアカネ	42	コノシメトンボ	43	ネキトンボ	44	コシアキトンボ
							
トンボ科 ◎ 体長40mm 翅の先端にある褐色の斑紋が目立つ中型の赤とんぼ。雌雄とも顔面に眉斑(ビバン)はない。未熟なうちは雌雄とも黄褐色の体色		トンボ科 ◎ 体長40mm 未熟なうちは雌雄とも黄褐色。翅の先端の褐色斑は薄い。成熟すると、雄は全身が赤化するが、雌は背面の橙色が濃くなる程度		トンボ科 ○ 体長45mm 未熟なうちは雌雄とも黄褐色を基調とした体色で、成熟した雄は全身が赤化し、雌は腹部背面のみ赤化する。		トンボ科 ◎ 体長35mm 全身黒色で、腹部白い部分が空いているように見えるのでこの名。成熟した雄は腹部の付け根が白色、雌と未成熟の雄は黄色	
45	カワトンボ	46	アジアイトトンボ	47	アオモンイトトンボ	48	クロイトトンボ
							
カワトンボ科 ◎ 体長50mm 緩やかな流れの清流に生息。雄は水辺の植物に留まって縄張りを作り近付いた雄を追い払う。雌が現れるとホバリングして求愛行動。		イトトンボ科 ◎ 体長20mm イトトンボ属の種類ではもっとも小さい。雄は腹部第9節に紋がある。雌は成熟すると、すすけた草色になり、同色型の雌は存在しない。		トンボ科 ◎ 体長30mm 雄の腹部第8、9節が鮮やかな空色をしていることが和名の由来。主に流れの無いあるいは流れのゆるやかな水辺でよくみられる。		トンボ科 ◎ 体長30mm 黒っぽくて、胸部側面と腹部の先が青いイトトンボ。成熟した雄は胸の横が粉をふいたように白くなる。水草の多い池などに多く見られる。	

「雲仙のセミ・甲虫」:雲仙は昭和9年3月に日本最初の国立公園指定され、その豊かな自然や景観が古くから継承、保護されてきました。公園内の自然歩道や登山道を散策し、美しい自然や、昆虫を観察して楽しみましょう！(お持ち帰りは思い出と記録だけ、採集は止めましょう！)

49	ハルゼミ(マツゼミ)	50	ニイニゼミ	51	ヒグラシ(カナカナ)	52	ミンミンゼミ
							
セミ科 ◎ 一年の出会いの最初のセミ。4月下旬の頃から地獄歩道周辺、原生沼、池の原、白雲の池の松から、ギー、ギーの鳴き声を耳にする。		セミ科 ◎ 梅雨の最中の6月下旬頃から8月頃にかけて発生し、他のセミより早く鳴き始める。8月には少なくなり、9月にはあまり見られなくなる		セミ科 ◎ 中型セミで翅は透明。7月頃から9月、朝夕に響く声は涼感や物悲しさを感じさせ、美しい声で鳴くセミとして文学などの題材にも使われてきた。		セミ科 ◎ 和名通りの「ミンミンミンミンミー…」という鳴き声がよく知られている。大型の美しいセミで、体はずんぐり型。翅は透明で山地帯に生息する。	
53	アブラゼミ	54	クマゼミ	55	ツクツクボウシ	56	エゾハルゼミ
							
セミ科 ◎ 屋久島以北の日本全土に成育し、雲仙では温泉街、小地獄、宝原や田代原などで普通に見られる。7月中旬から8月に出現するのが普通だが、9月まで見られることもある。		セミ科 ◎ 黒い力強い大型の南方系のセミで平地にも多い。7月中旬にはシャーシャーとかワシワシとか暑さを感じさせる鳴き声を響かせる。8月には最も盛んに鳴く。		セミ科 ○ 小型のセミで、8月下旬には、白雲の池、仁田峠アザミ谷などで鳴いている。鳴き声は特徴的で、和名もこの聞きなしに由来する、「ツクツクツク…ボーシ!ツクツクボーシ」と		セミ科 ○ 北海道から九州まで生息しているが、県下では多良山系と経ヶ岳の山頂、雲仙では仁田峠から、あざみ谷、普賢岳など1,000m以上の高所で記録がある。	
57	ハンミョウ(ミチオシエ)	58	ニワハンミョウ	59	ミヤマクワガタ	60	ノコギリクワガタ
							
ハンミョウ科 ◎ 体長20mm 春から秋まで見られ、人が近づくと、1~2m程飛んで着地し、繰り返すため、その様子を「ミチオシエ」という別名がある。大きな複眼と大顎		ハンミョウ科 ◎ 体長20mm 光沢がなく暗銅色をしたハンミョウ。上翅に白い小さな紋があるが、紋の形には変異がある。地面を徘徊し、他の昆虫を食べる。		クワガタクムシ科 ◎ 体長70mm 頭部にある冠状の突起が特徴。大型では発達する。夜行性でブナ科の樹液に飛来し灯火にも来る。怒らすと体をそらし威嚇姿勢をとる。		クワガタクムシ科 ○ 体長75mm 大あごの内側の歯がキザキザののこぎり状になっている。平地から低山地の雑木林で見られ、夜、クヌギ、コナラなどの樹液に集まる。	
61	クワガタ	62	ゴマダラカミキリ	63	カマドコオロギ	64	ハネナシコオロギ
							
クワガタクムシ科 ○ 体長50mm クワガタクムシの中では最もなじみ深い種類で木を蹴ると落ちてくるので採集もしやすい。雑木林のクヌギなどにいる。		カミキリムシ科 ◎ 体長30mm 全身が黒く、光沢のある黒色に白斑点が目立ち、和名に由来。前翅以外の部分は光沢がなく、腹側や脚は青白い細かい毛で覆われ		コオロギ科 ◎ 体長18mm 成虫は一年中みられ、雄はチ、チ、チと比較的高い音を出して鳴く。その名は、人家のかまどなどの周辺にすみつくことによる。		コオロギ科 ◎ 体長17mm コオロギとキリギリスの中間的分類。成虫になっても翅がない。体色は赤褐色で、腹部は黒く夜行性で、草木を歩き回り虫を捕食する	